私の行きつけ

新・赤ちょうちん

50

九十九（つくも）

JR常磐線
亀有駅南口
徒歩5分

スタッフ全員集合～

【葛飾・ブロック・三瓶秀夫通信員】亀有駅南口から徒歩5分、立派な店構えの『九十九（つくも）』があります。きっかけは20年位前の組合の新年会。それ以来、おいしい料理に加えて、店主・おかみさんをはじめ店員のみなさんの人柄の良さで、行きつけとなりました。

100になるまで頑張る
一生懸命こだわり持って

店主の荻原利男さんは、自分の店をもって49年。竹の塚で4年、東神田で20年、そして、亀有で25年。妻の芳江さんと共に歩んできました。竹の塚の店の電話番号に99があった縁が始まりで、東神田の店から現在の店名に。100になるまで頑張りますという思いが込められています。

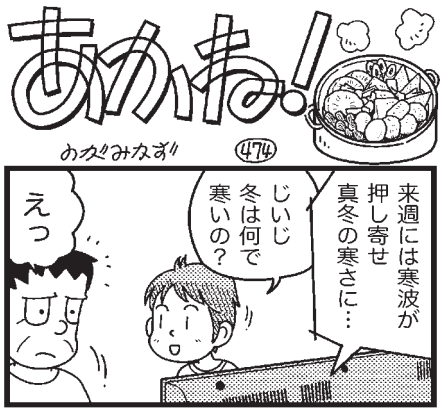
店には机や看板の材木から座布団にいたるまで利男さん、芳江さん自らが選定してきたこだわりがあります。また日々の仕込みや接客にもこだわりを持って、「一生懸命、まじめにちゃんとやる」と芳江さんは話します。

店の看板は活魚・刺身。活伊勢えびをはじめ、アワビ、サザエ、ウニ、カキなど。4人の板前全員がフグの調理士免許を持つほど料理の腕は他店に負けません。他にもこだわりのマグロ、フグ、ウナギ、ドジョウ、そしてスッポン料理まで、幅広く高い技術で日本料理を提供してくれます。

おいしい日本料理と居心地の良い接客。みなさんも一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

《主なメニュー》（税込）
刺身舟盛　7000円
下駄盛　3500円
四点盛　2000円
とらふぐコース　9000円

【営業時間】16時半～22時半、月曜定休
葛飾区亀有3―16―15
☎03―3690―0099



人間模様

絶叫スピーチ

陸上自衛隊の元自衛官でヘリコプターの操縦をしていたという砂川文次は、3度目のノミネートとなる『ブラックボックス』で第166回芥川賞を受賞。

その贈呈式で登壇した砂川は、受賞のスピーチの中で突然、「海の向こうで戦争が起こっていて！くそみたいな政治家がたくさんいて！（中略）怒ってない気持ちがないわけないじゃないっすかあ！」と国際情勢や政治への怒りに対して、飛び跳ねながら絶叫した。お話したり、時にはからかったり…それを見た隣のクラスの悪ガキ。「お前、あいつのこと好きなんだろ！」「そんなことないよ！」。僕は嘘をついた。素直に自分の気持ちを言うにはまだ数年、時が必要だった。

数カ月後の月曜の朝、先生は神妙な顔つきで話し始めた。「○○さんは転校しました。この学校では嫌なことしかなかったからお別れの挨拶はしませんと言ってました」。

教室の空気は一気に重くなった。ちょっかいを出し、逃げる僕。「もー」と言って笑いながら追いかけてくる彼女。そんな事柄も彼女にとっては何の日常の彩りにはなり得なかったのだろうか。

50歳を過ぎた僕、いや、おじさんは思うのだ。好きな人は大切にしよう。好きな人には好きと言おう。（新宿）

忘れえぬこと

Gone Girl
素直になれずにゴメン

設備　武部　正人

彼女が消えてしまった。前触れもなく姿を消したのだ。主をなくした椅子と机は寂しそうにその場に佇んでいる。

彼女は遠い異国からやって来た。確かアジアのどこか暖かい国。担任の先生の話では、お父さんの仕事の都合で一時帰国するとのこと。悪ガキが「そいつ、コレラじゃねーの！コレラ菌だ！」。当時、日本ではコレラ菌による食中毒が紙面を賑わせていた。

転校してきた彼女は少し垂れ気味の大きな目、大きい前歯がチャーミングな女の子。11歳の僕の日常に彩りを与えてくれた。同じような男子は数人いたに違いない。なぜなら、コレラ！コレラ！と中傷したり、下校する彼女の後をつけて家を特定したり。

だんだんと打ちとけ合い、このセンスがさすがである。

それにしてもミック・ジャガーの声の若々しさには驚かされる。御年80歳だ。ストーンズはやっぱりレコードで聴きたい…という人が多いだろうか。ただ新譜は、ミックの柔軟な発想、先進性から考えると、iTunesのストリーミングで聴くのが正解なのかもしれない。

詰将棋

持駒　飛　桂

6	5	4	3	2	1	
	歩		王	歩		一
	馬	金				二
			桂			三
						四
						五
						六

チョット一服（1091）

イギリスのバンド、ローリングストーンズが新譜を出した。おととし亡くなったドラマー、チャーリー・ワッツの変わりはスティーヴ・ジョーダンが務めている。ちなみに30年前にベースが抜けた時はダリル・ジョーンズを起用しているが、両方とも黒人だ。

けんせつシネマ時評

アントニオ猪木をさがして
監督　和田　圭介　三原　光尋

死して尚問いかけてくる闘いの魂

人は二度死ぬと言われている。最初は肉体的に滅びた時、次は人の記憶から消え去る時。昨年10月に他界したアントニオ猪木のファンの中には、「そもそも〝燃える闘魂〟なんだから猪木は死んでいない」と信じてやまない者も多い。

先月6日に公開された『アントニオ猪木を探して』は、没後1年を経て新日本プロレス創立50周年記念として製作された。監督は和田圭介と三原光尋（ドラマパート）。藤波辰爾・藤原喜明・棚橋弘至・オカダカズチカら選手のほか、お笑い芸人の有田哲平や俳優の安田顕など、猪木に影響を受けたさまざまなジャンルの人たちがそれぞれの視点で猪木を語るドキュメンタリーや、80年代に猪木ファンとなった少年の成長を描いた短編ドラマなどで構成されている。

合間に流れる試合等のお宝映像に、各々体感してきた想い出がフラッシュバックし、身体に沁み込んだ猪木を反芻してしまう。

マスコミに散々叩かれ多額の借金を残したが、のちの総合格闘技の礎にもなったモハメド・アリ戦。湾岸戦争直前には、イラクへ単身乗り込み人質解放を実現。スタンドプレー、人気取りなどと騒がれたが、常に賛否両論巻き起こしながらも、行動を起こして実現させるのが猪木流だった。

相次ぐ自然災害、度重なる増税、そこを襲ったコロナ禍ですっかり元気を失った日本だが、猪木ならばどうするか問うてみたい。

きっと、札幌で若手相手に繰り広げた「猪木問答」で健想を叱ったように、「バカヤロー、そんなこたぁ自分で考えろ！」という答えが返ってくるに違いない。